

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：教育費 項：大学費 目：情報科学芸術大学院大学費

事業名 大学院大学広報費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 情報科学芸術大学院大学 電話番号：0584-75-6600

E-mail：c21905@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 4,924 千円 (前年度予算額：4,924 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	4,924	0	0	4,924	0	0	0	0	0
要求額	4,924	0	0	4,924	0	0	0	0	0
決定額	4,924	0	0	4,924	0	0	0	0	0

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

少子化、専攻分野が競合する大学等が各地に増加してきたことに伴い、本学への出願者の確保対策が必要となっており、I AMASの産学連携活動など、積極的に県内外にアピールする必要がある。また、令和3年から設置した博士課程を継続的に広報していく必要がある。

(2) 事業内容

国内外を対象とした多彩な広報を実施するとともに、県内に向けて本学の特徴を積極的にPRし、地元地域における知名度の向上と、県内産業・地域文化の振興に寄与する。

全国で同種の学部・大学院が増加もしていることから、これまで以上に積極的かつ効果的な広報並びに学生募集活動を行い、独創的で優秀な学生を数多く確保し、多彩な人材の育成を行う。

令和3年度から設置された博士後期課程の広報を行う。

(3) 県負担・補助率の考え方

使用料・手数料（入学金・授業料）を充当

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	1,992	学校パンフレット制作謝礼等
旅費	200	業務旅費（県外進学説明会など）
消耗品費	120	消耗品費
印刷製本費	1,182	パンフレット等印刷製本費
役員費	50	入学案内郵送料 等
委託料	1,200	広報物デザイン委託、webpageリニューアル
使用料	180	県外進学説明会 会場借上費
合計	4,924	

決定額の考え方

4 参考事項

（1）後年度の財政負担

I AMASの活動の多様化と、将来的な定員増に向けて、各分野からの多才で優秀な学生を確保することが重要であるため、県内にとどまることなく全国レベルにおいて、積極的かつ効果的な広報活動並びに学生募集活動を行う必要がある。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

本学の特徴について広く理解促進を図るため、国内外を対象として積極的な広報を実施するとともに、優秀な学生を確保するための募集活動を行う。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (H22)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (-)	達成率
①受験者数（人）	44	47	45	45	45	104%
②						

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<p>学校紹介行事「オープンハウス」やオンラインでの進学相談会、各種イベントの機会を通じたPRや、パンフレット内容の見直し、Webを通じた学校PRなどを実施し、知名度の向上とともに受験生の確保を図った。</p> <p>積極的な広報活動の結果、前年度同等の受験者数を確保した。少子化の進展や同種学部の増加といった状況を踏まえ、ひきつづき優秀な学生の確保に向けて、積極的に広報活動を実施していく。</p>
令和3年度	<p>学校紹介行事「オープンハウス」は、新型コロナウイルス感染症の影響でフルオンラインで実施することとなった。ほかに、パンフレット内容の見直し、大学院博士後期課程の開設に伴う学校PRなどを実施し、知名度の向上とともに受験生の確保を図った。</p> <p>結果として前年度同等の受験者数を確保することができた。</p> <p>指標① 目標：45 実績：46 達成率：102%</p>
令和4年度	<p>令和5年度当初予算にて追加学校紹介行事「オープンハウス」は、久しぶりに対面形式で開催された。ほかにも、パンフレット内容の見直し、大学院博士後期課程の学校PRなどを実施し、知名度の向上とともに受験生の確保を図った。</p> <p>結果として、昨年度同等の受験者数を確保することができた。</p> <p>指標① 目標：45 実績：47 達成率：104%</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない 	
(評価) 2	本学の教育研究を高い水準で維持するためにも、優秀な学生の確保が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 2	学部を持たない大学院にもかかわらず、一定の受験生を確保しており、受験生獲得に向けた学生広報の効果が上がっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている 	
(評価) 1	地道な学生募集活動に加え、Webを効果的に活用するなど、様々な媒体を活用した効果的・効率的な広報に努めている

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 時代に即したカリキュラム充実のため、非常勤講師を活用することで、常に先進技術等を意識した、より高度な人材育成を行う。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか メディア表現分野では国内外で一定の評価を受けているが、県内での知名度は十分でないことから、地域社会や産業への貢献について県内に向けた広報に取り組みつつ、潜在的な需要を掘り起こすような多様な広報活動を推進していく。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせる理由 や期待する効果 など	